

保健消防委員会 所管事務調査事項 提案一覧表

No.	テーマ	調査理由等
1	地域包括システムの体制強化について	現在、2025年を目標年次として進められてきた「地域包括ケアシステム」をいかに進化させていくのかが問われています。そのためにも、あんしんケアセンターの充実および増設が重要となってきます。 また、切れ目なく医療と介護サービスの提供ができるよう、多職種のさらなる連携が必要であるためDX化の推進が必要であると考えます。 今後、超高齢社会の中で人生の最終段階における暮らし方やケアの選択などを考えておくためのACP、いわゆる人生会議の普及も重要になってきます。 このことから、住み慣れた自宅や地域で医療や介護を安心して受けられ暮らしていけるように、以上の三つの視点から地域包括システムの体制強化について調査する必要があると考えます。
2	産後うつ・育児ストレスへの支援体制	本市においては、産後ケアや子育て世代への支援体制は整備されてきてはいるものの、存在を知らず、必要な支援にたどりつけない家庭があること、また、経済的・心理的な理由から支援の利用をためらうケースや、相談そのものをためらう家庭が存在すると聞いている。また、母親だけではなく、父親を含む家庭全体の育児ストレスへの支援、特にメンタル面のケアや相談体制の強化も今後の課題と考える。そこで、本市が提供している支援の現状を把握し、当事者や支援者の声を通じて必要な支援の在り方を明らかにするとともに、他都市の先進事例についても調査研究したい。
3	精神疾患について	現在、本市では精神障害のある方、こころの健康に不調を抱える方等への支援の一つに夜間・休日の心のケア相談という形で行っています。しかし、大人になってから診断される精神疾患の半分は10代半ばまでに、4分の3は20代半ばまでに発症しているというデータがあり、心身の不調を早期に発見して早期に治療につなげ、早期に回復してもらうことで将来的な負担を軽減しながら、若者の健康を守っていく必要がある。
4	消防団について	現在の消防団は、団員の高齢化が進み、新たに団員と参加する若者が年々減少している。地域防災を担う消防団員の増員は急務の課題である。機能別消防団で、人数減少をカバーしている状況であるが、どのようにしたら若い団員、新しい団員に加入してもらえるか、検討を進めなければならない。また、老朽化した機庫等、新しい装備品等の購入も新加入の団員の魅力となる可能性が大いにある。
5	高齢者の孤独死対策について	1人暮らしの高齢者が自宅で誰にも気づかれずに亡くなることが問題となっているので少しでも未然に防ぐ対策が必要と思われる。対策事例や先進自治体があれば本市も参考としたい。

6	救急医療搬送の実態と地域医療について	千葉市の救急医療件数は、高齢化や救急要請の多様化及び不適正利用により、年々増加傾向にある。昨今起きている地域医療の実情は、都市部医院のまさかの閉院と、本市にとっても他人事ではない。地域医療の課題は、医師や看護師不足、高度医療に関わる課題など多岐に渡る。よって、調査する焦点を救急医療搬送とし、地域住民や消防・医療の実態を把握し、そこから見える、私たちが目指す持続可能な地域医療とはを考察したい。
7	地域包括システムの体制強化について	現在、2025年を目標年次として進められてきた「地域包括ケアシステム」をいかに進化させていくのかが問われている。そのためにも、あんしんケアセンターの充実および増設が重要となってきます。 また、切れ目なく医療と介護サービスの提供ができるよう、多職種のさらなる連携が必要であるためDX化の推進が必要であると考えます。 今後、超高齢社会の中で人生の最終段階における暮らし方やケアの選択などを考えておくためのACP、いわゆる人生会議の普及も重要になってきます。 このことから、住み慣れた自宅や地域で医療や介護を安心して受けられ暮らしていけるように、以上の三つの視点から地域包括システムの体制強化について調査する必要があると考えます。
8	救急搬送について	年々救急搬送に関わる通報をしてから病気で治療を受けられるまでの時間が延びてきていることへの対策を消防と病院局、保健福祉局と連携しながら、どうすれば解決できるか研究していく。
9	地域包括支援センターの現状と今後の機能強化に関する調査	本市では高齢化の進展に伴い地域包括支援センターへの相談件数や業務負担が年々増加している。特に独居高齢者や認知症高齢者の増加8050問題に起因する複合的課題への対応、介護と医療との連携調整等、支援ニーズが多様化複雑化している。本市の地域包括支援センターは現場では人材の確保や業務の質の維持が困難となっており慢性的な人手不足と職員の過重労働が課題となっている。また、ICTの活用による業務効率化が十分に進んでいない状況もみられる。 地域包括支援センター（あんしんケアセンター）の役割を明確化、各センターとの役割分担などについて検証が求められている。市民が必要な支援に迅速、適切にアクセスできる体制整備を進めるためには現状の課題を可視し、今後の施策の方向性を調査する必要がある。
10	少子高齢化にかかわる医療制度問題	高齢者人口の増加により、医療費が急速に増加しており、財政負担が重くなっています。特に後期高齢者医療制度では、持続可能な運営が求められる。高齢者の増加に伴い、病床数や医療従事者の不足が懸念され病床不足が予測されており、医療需要が増加する。若葉区など交通不便地域では医療アクセスの確保が課題であり、地域ごとの医療資源配分の最適化が求められる。若年層の負担が増加し、医療保険制度の維持が難しくなり若い世代も納得できる制度改革が求められています。地域の医療体制の強化、財政負担の軽減、交通不便地域への支援、そして若年層の負担軽減策など、千葉市として総合的なアプローチができるのか